

【見附市教育委員会の基本理念】

- ① ふるさと見附を愛する子ども ② 世に役立つことを喜びとする子ども

教育目標

【教育目標】 自主 協和 錬磨

【目指す生徒像】 ふるさとを愛し、見附の人、自然、ものとかかわり、自分を高める生徒
助け合い、話し合い、学び合い、3つの「合い」（＝愛）を私（＝I）から」

知育	自りつ（立・律）のために必要な基礎的・汎用的能力の定着	徳育	自他共に落ち着いて教育活動に取り組むための言動の定着	体育	命を大切にし、自律的に生活習慣を改善する姿勢の定着
1 成果目標 （1） 基礎学力の定着 ① 年3回の国語、数学、英語の基礎学力テストで、80点を上回る生徒が80%以上になる。 ② 学校生活アンケート（7、12月）の「授業が分かる」生徒が90%以上になる。 ③ 学校生活アンケート（7、12月）の「家庭学習強調旬間で学年×10分間以上取り組んだ」生徒が80%以上になる。 （2） 読解力、活用力、学習調整力の育成 ① CRTの正答率が全国平均を上回る。 ② 全国学力・学習状況調査の平均正答率を上回る生徒が80%以上になる。 ③ 学校生活アンケート（7、12月）の「学校の学習内容が生活の役に立つ、生活を豊かにする」生徒が90%以上になる。 ④ 学期末の評価で、3観点のすべての評価がB以上の生徒が80%以上になる。 学び合いの中で思考を深め広げる生徒を育てる 2 教育活動 （1） 郷土に誇りと愛着をもち、守り、受け継ぎ、発展させる態度を育成する。 ① アントレプレナーシップ教育と地域の学習を中核にした「総合的な学習の時間」 ② 地域の人材活用と体験活動の継続（外部講師による指導、体験、活動等） （2） 「目指す子ども像」を明確にした単元指導計画により、目標と評価、指導が一体化した、主体的・対話的で深い学びを実現する。 （3） 最終的にどの生徒も自分の考えをもち、発表することができる発問や解決の手立ての工夫が明確にあり、効果が目に見える指導計画を立てる。 （4） 学び合う場面で比較材料を提示し、生徒を触発することで、認識が拡大し、思考が深まり、何を学んだかが分かる授業にする。 （5） 切れ目のない学びを継続する。 ① 「本時の学習の予定」→「学習課題の提示」→「中心発問」→「まとめ」→「振り返り」のある授業の実践 ② 子どもが効果を感じる宿題や課題とそれを活用する授業の実践		1 成果目標 （1） 助け合い、支え合う心を育む ① 学校生活アンケート（7、12月）で、「自分の活動や行動を他者から認めてもらったことがある」の肯定的評価が全校生徒の80%以上になる。 ② 学校生活アンケート（7、12月）で、「自分の仕事や役割を責任をもって果たした」の肯定的評価が全校生徒の80%以上になる。 ③ 学校生活アンケート（7、12月）で、「自分は学校や地域のボランティア活動に主体的に参加した」の肯定的評価が全校生徒の80%以上になる。 （2） 豊かな心を求める ① 学校生活アンケート（7、12月）で、「道徳の授業で、他者の意見を聞き、自分の考えをまとめることができた」の肯定的評価が全校生徒の80%以上になる。 ② 学校生活アンケート（7、12月）で、「学校、家庭、地域で自分から先に挨拶をした」の肯定的評価が全校生徒の80%以上になる。 ③ 学校生活アンケート（7、12月）で、「自他の人権を尊重し、いじめを許さない、見逃さないという気持ちをもって生活した」の肯定的評価が全校生徒の80%以上になる。 社会性を育み、故郷を愛する豊かな心もつ生徒を育てる 2 教育活動 （1） 社会的なスキルを身に付け、人間関係づくりの能力を高める。 ① いじめをしない、許さない意識の醸成 ② 命を大切にする意識の醸成 ③ 自己表現力と傾聴する態度の育成 （2） 特別活動、総合的な学習の時間、道徳、各種教育を関連付け、地域における体験や校外学習などを通して、自己肯定感や達成感、故郷を愛する心を育てる。 （3） 学校行事や生徒会活動で実施する交流活動や体験で、生徒一人一人の役割を明確にして、自己有用感や満足感を高める。 （4） 年間35時間の道徳の授業を確実にを行い、問題解決的な資料を扱うとともに、道徳的行為に関する体験的な学習を計画的に適切に実施する。		1 成果目標 （1） 体力の向上 ① 学校生活アンケート（7月、12月）で、体力の向上を目指し、保健体育の授業や部活動、昼休みなどの時間に積極的に運動することができた生徒の割合が80%以上になる。 （2） 好ましい健康習慣の定着 ① 学校生活アンケート（7月、12月）で、健康維持のために、23時、遅くても24時までに就寝できるように努力したり、工夫したりすることができた生徒の肯定的評価の割合が80%以上になる。 健康増進と体力向上に粘り強く努力する生徒を育てる 2 教育活動 （1） 年間授業計画に長距離走を位置付け、持久力を高める実践を継続する。 （2） 体育の授業でランニングや敏捷性、筋パワーを高める補強運動を準備体操に含め、帯活動として年間を通して実施する。 （3） 体育の授業で単元ごとに体つくりのための活動を紹介し、実施する。 （4） 生活習慣改善強調習慣「My 健」を年3回実施。1年間を通して、「家庭での時間割」の改善と実施に取り組む指導を継続 （5） 合同学校保健委員会において快眠セミナーを実施	
地域	1 成果目標 （1） 主体的な貢献と参加 ① 学校生活アンケート（7、12月）で、「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦した」の肯定的評価が全校生徒の80%以上になる。 ② 学校評価アンケート（7、12月）で、「人の役に立つ人間になりたいと思う」の肯定的評価が全校生徒の80%以上になる。 （2） 学校・家庭・地域の連携 ① 学校生活アンケート（7、12月）で、「自分の住む地域に貢献したいという気持ちをもち、地域貢献活動等に積極的に参加することができた」の肯定的評価が全校生徒の80%以上になる。 ② 学校生活アンケート（7、12月）で、「自分が住む地域の様子（地域の特徴や行事、危険個所など）について理解を深めた」の肯定的評価が全校生徒の80%以上になる。 2 教育活動 （1） 学級活動または総合的な学習の時間において、地域貢献活動やボランティアの経験が各教科等の学習に生きることなど、地域での活動と各教科等の深い関わりに気付く機会を設定する。 （2） 生きた言葉の直接的なコミュニケーションを重視するために、「キャリア・パスポート」の記述を期末懇談会の面談で活用する。 （3） 基礎的・汎用的能力の育成を目指す「ルーブリック評価表」を作成し、活用方法や評価方法とともに生徒と共有して、相互評価や自己評価させる。 （4） 生徒に資質・能力の成長を折れ線グラフで記録させて、目に見えない資質・能力を捉えやすくする。グラフの上昇や下降の理由を文章で記述させて、成長したことや根拠を明確にして、資質・能力の成長を自覚できるようにする。				
連携・協働による地域とともにある学校づくりの推進					
1 小中連携の推進		2 家庭との連携の推進		3 地域との連携の推進	
（1） 小中共通課題である「学力向上」「アントレプレナーシップ教育」を推進する。 （2） 「学力向上」「生徒指導」「生活改善」の3つで、小中9年間で育てる力を明確にし、育成に取り組む。 （3） 小中連携事業を計画的に実施する。 ① 情報交換 ② いじめ見逃しゼロプロジェクト （4） 小中合同研修で、相互の教育活動（教科、道徳、総合的な学習の時間、キャリア教育など）の課題を協議して連携を深める。		（1） 生徒と保護者が協働する機会を設定し、活動を充実させる。 ① グラウンド環境整備作業 ② PTA学年行事 （2） 次のことを実施し、家庭と連携して生徒の成長を支える。 ① 期末保護者会（個別面談） ② 学年懇談会 （3） 心身の健康に関する講演会や教育活動を計画的に実施し、生徒の学習内容や感想などをお知らせする。		（1） 学校運営協議会、地域学校共同本部、コミュニティ後援会、PTAと連携して、次のことに取り組む。 ① ボランティア活動 ② あいさつ運動 ③ フラワーロード活動 （2） 地域と連携した教育活動を推進する。 ① 「総合的な学習の時間」、道徳、特別活動、キャリア教育での地域人材の積極的活用 ア 講演会、体験活動の講師 イ 職場体験学習、職場見学	